

22-04 男女共同参画推進専門委員会議事メモ

日時 平成22年7月27日(火) 9:15~9:57

場所 総合研究棟Ⅱ 第1会議室

出席者 後藤理事、小川学長補佐

水落、中島、大淵、富田、門脇、花見、石阪、中西、鈴山、江崎総務部長

◎ 前回議事メモの確認

後藤理事から、事前にE-mailで確認した、22-03男女共同参画推進専門委員会議事メモ(資料1)については、配布資料のとおり記録にとどめた旨の報告があり、了承された。

I 検討事項

1. 各ワーキンググループの取り組みについて

◎ 後藤理事より、各ワーキンググループの取り組みについて、順次各ワーキング主査から発表していただくよう要請があった。

続いて鈴山コア人材育成・啓発ワーキング主査より(資料2-1)により詳細説明があった。

◇ 主な意見

- ワーキング報告はあくまでも「報告」であり、本委員会で議論する材料であるが、この委員会でも出された資料については委員長サイドで一部加筆した部分があります。
- 大学全体の状況は厳しいものがあり、7月末政府シーリングがでる予想であるが、10%削減が言われており、本学の運営交付金は来年度予算として、人件費を含め10億円削減せねばならない。人文学部が人件費を含め9.5億円であり、1学部削減の状態であることを認識してもらいたい。例にあるように、本学とは立場が違い名古屋大学等旧帝大は外部資金等が充沢であり、振り返って本学の参画室(準備室)を女性支援室と平行して立ち上げるほど余裕がないことを理解してもらい、その上でこの委員会のあり方等を考えてもらいたい。
- コア人材育成は先進大学(東海大学等)の視察や、名古屋大学の講師招聘も考えている。
- 学生アンケートの実施については、学長宣言でも言われており、委員の意見もあり実施することを継続審議とする。
石阪制度整備ワーキング主査より(資料2-2)により詳細説明があった。

◇ 主な意見

- 他のWGとの連携をしながら、制度のチェックと改善を図りたい。当面パンフレット、リーフレット作成を考えている。保育環境ワーキングと協力して、イベント等の一時保育の仕組みを検討したい。男女共同参画専門委員会は、あくまで専門的な助言やアドバイスをを行うための組織として特化させ、制度の運用や政策の実行は「室」で行うことが望ましい。
- 学生アンケートの実施については、キャリア支援センターと連携し、共通教育の総合科目で、キャリア教育科目の中でやる方法もある。アンケートは事務手間・経費も掛かり、充分考えて実行したい。
- 育児・介護休業法の改正、ノー残業デーの周知は部局連や事務連で周知された。
中西保育環境ワーキング主査より(資料2-3)により詳細説明があった。

◇ 主な意見

- 委員会の意見として、女性教職員・学生の安全対策として、工学部領域の夜間照明整備改善を施設部に申し入れる。出来たらカーボンフリー構想で実現を期待する。
- 来年度の新さつき園5名枠は本年度利用状況で考慮されるので、問題にならない。

II 報告事項

1. 平成22年度「大学・研究機関のための男女共同参画推進研修」の報告について、鈴山委員から資料3に基づき報告があった。
2. 平成22年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」について、鈴山委員から資料4に基づき照会があり、参加者を募ることとした。

次回の開催については、8月は休会とし、追って9月調整する旨確認した。